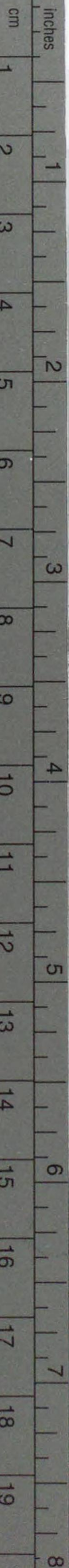


Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

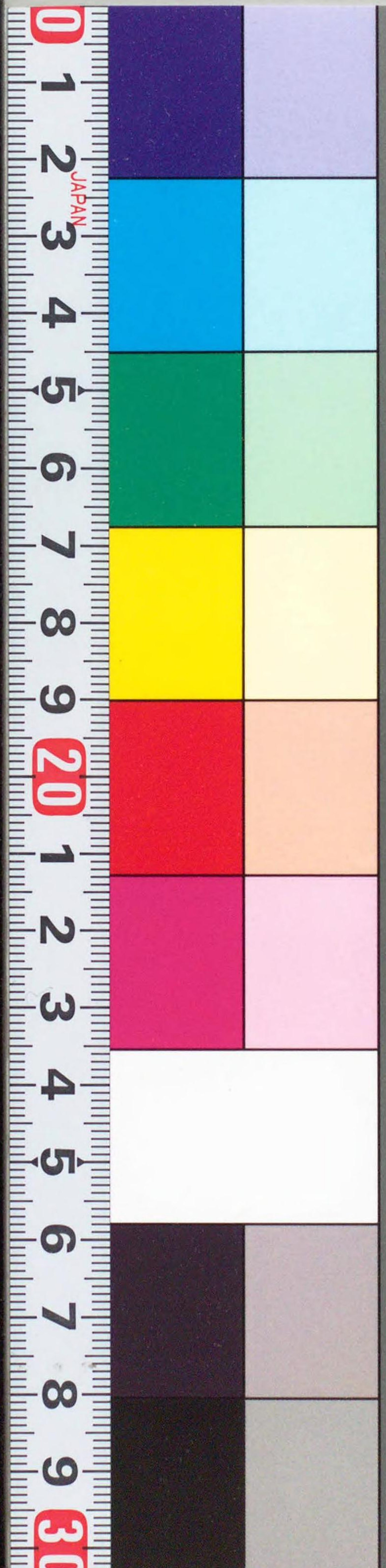
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black



衆一海

受入番號 6750

部門 6

部門配置番號

CZ-476-H22



\*1200600229736\*



遠洋航路補助法  
造船獎勵法  
及關係法令

遞信省管船局

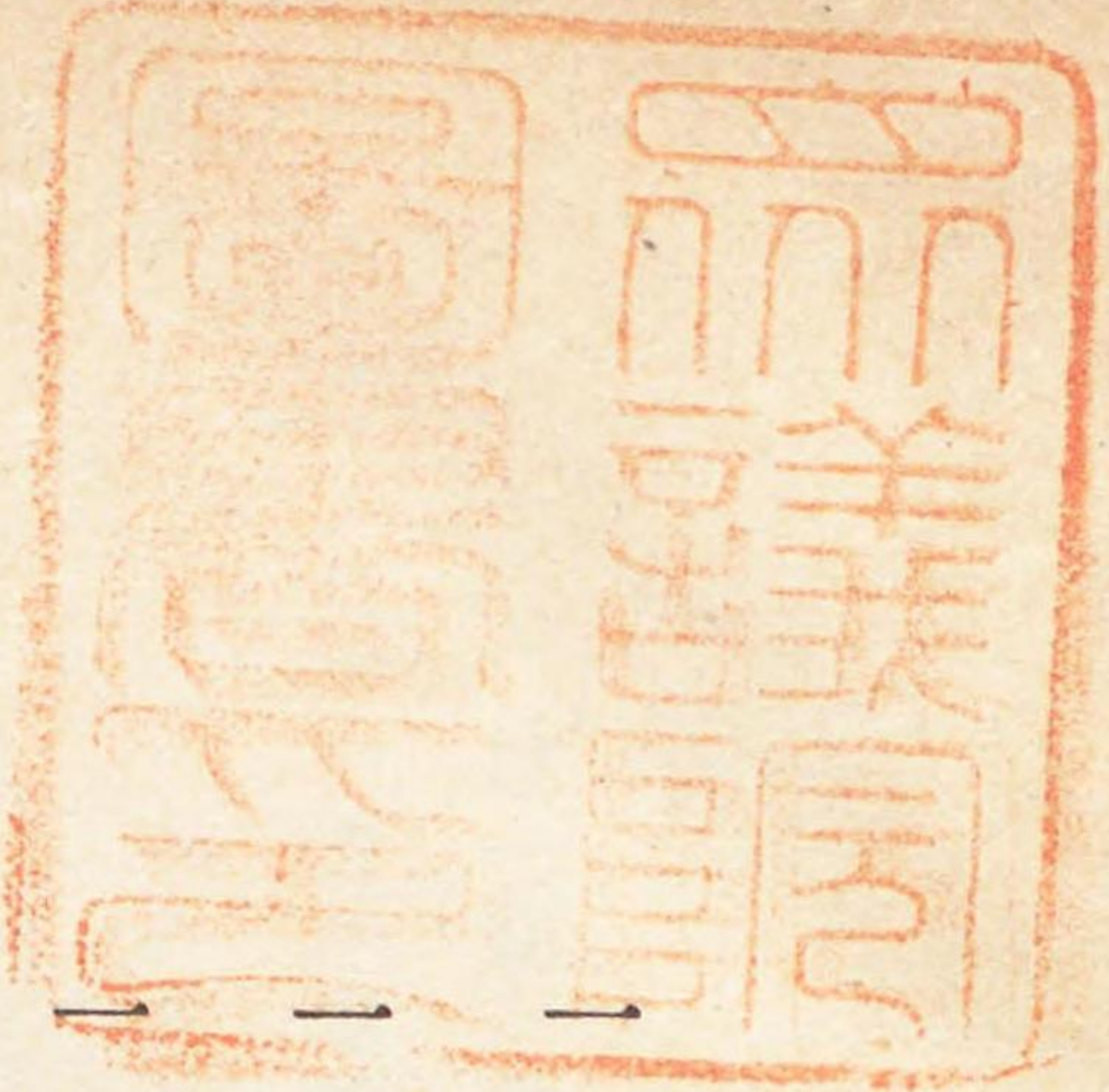
CZ  
476  
H22



I 種  
W



\*1200600229736\*



目次

一	遠洋航路補助法	一	頁
一	補助航海ニ從事スル商事會社ニ關スル法律	七	頁
一	遠洋航路補助法施行細則	八	頁
一	造船獎勵法	三十四	頁
一	造船獎勵法施行細則	三十六	頁

### 遠洋航路補助法

明治四十二年三月  
法律第十五號

第一條 主務大臣ハ帝國臣民又ハ帝國臣民ノミヲ社員若ハ株主トスル商事會社ニシテ運送業ヲ營ム者ニ本法ニ依リ航海補助金ヲ支給シ五年以内ノ期間ヲ限リ左ノ遠洋航路ニ於テ定期航海ニ從事セシムルコトヲ得但シ補助金額及年限ニ付テハ帝國議會ノ協賛ヲ求ムヘシ

- 一 歐洲航路
- 二 北米航路
- 三 南米航路
- 四 濠洲航路

本法ニ於テ補助航海ト稱スルハ前項ニ依ル定期航海ヲ謂フ

第二條 補助航海ニ使用スル船舶ハ總噸數三千噸以上ニシテ一時間十二海里以上ノ速力ヲ有シ主務大臣ノ定ムル造船規程ニ合格シ且帝國船籍ニ登録シタル船齡十五年以内ノ鋼製汽船ニ限ル船舶ノ速力ハ主務大臣ノ定ムル方法ニ依リ之ヲ算定ス

第三條 外國製造ノ船舶ハ補助航海ニ使用スルコトヲ得ス但シ帝國船籍ニ登録ノ際船齡五年以内ノ

船舶ニシテ已ムヲ得サル事由ニ因リ其ノ使用ニ關シ主務大臣ノ認可ヲ得タルモノハ此ノ限ニ在ラス

第四條 航海補助金ハ使用船舶總噸數一噸航海里數一千海里ニ付速力一時間十二海里ヲ有スルモノニ對シ五十錢以內、速力一時間一海里ヲ増ス毎ニ其ノ百分ノ十ヲ増シタル金額以內ニ於テ航路ノ狀況ニ應シ之ヲ支給ス但シ船齡五年ヲ超ユル船舶ニ對シテハ一年毎ニ其ノ百分ノ五ヲ遞減ス

外國製造ノ船舶ニ對シテハ前項ノ規定ニ依リ支給スヘキ航海補助金ノ半額ヲ支給ス

特ニ主務大臣ノ認可ヲ得タル設計ニ依リ製造シタル船舶又ハ定期航海ノ開始後五年ヲ經過セサル航路ニ使用スル船舶ニ對シテハ前二項ノ規定ニ依リ支給スヘキ航海補助金ノ百分ノ二十五以內ヲ増給スルコトヲ得

航海補助金ノ算定ニ於テハ航海里數ハ各港間ノ最近航路ニ依リ一噸未滿又ハ一海里未滿ノ端數ハ之ヲ除算ス

第五條 補助航海ニ於ケル旅客、貨物ノ運賃ハ主務大臣ノ認可ヲ得テ之ヲ定ムヘシ  
主務大臣ニ於テ必要ト認ムルトキハ種類ヲ指定シ旅客、貨物ノ運賃ヲ低減セシムルコトヲ得

第六條 補助航海ニ使用スル船舶ニハ主務大臣ノ定ムル所ニ從ヒ郵便物及郵便用品ヲ無賃ニテ搭載

シ無線電信ノ通信ニ關スル設備ヲ爲シ且通信事務又ハ航路視察ノ爲主務大臣ノ派出スル吏員ヲ無賃ニテ乗船セシムヘシ

第七條 補助航海ニ従事スル者ハ主務大臣ノ定ムル所ニ從ヒ定期航海ノ維持ニ必要ナル施設ヲ爲スヘシ

第八條 補助航海ニ従事スル者ハ主務大臣ノ定ムル所ニ從ヒ左ノ割合以內ニ於テ其ノ費用ヲ以テ航海修業生ヲ使用船舶ニ乗組マシムヘシ

總噸數三千噸以上五千噸未滿 四人

總噸數五千噸以上八千噸未滿 五人

總噸數八千噸以上 六人

第九條 補助航海ニ従事スル者ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ外國人ヲ其ノ本店若ハ支店ノ事務員又ハ使用船舶ノ職員ト爲スコトヲ得ス

外國ニ於テ死亡其ノ他已ムヲ得サル事由ニ因リ使用船舶ノ職員ニ闕員ヲ生シタルトキハ前項ノ規定ニ拘ラス之ヲ補フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ補助航海ニ従事スル者又ハ船長ヨリ直ニ主務大臣ノ認可ヲ請フヘシ

第十條 補助航海ニ從事スル者ハ主務大臣ノ定ムル所ニ從ヒ補助航海ニ關スル收支計算書及營業狀況報告書ヲ提出スヘシ

主務大臣ニ於テ必要ト認ムルトキハ補助航海ニ從事スル者ノ本店、支店、代理店又ハ使用船舶ニ吏員ヲ派遣シ其ノ收支計算及營業狀況ヲ監査セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ補助航海ニ從事スル者ハ當該吏員ノ求ムル所ニ從ヒ業務上一切ノ事項ヲ開申シ帳簿其ノ他一切ノ文書ヲ檢閲ニ供スヘシ

第十一條 主務大臣ハ相當ノ補償金額ヲ定メ補助航海ニ使用スル船舶ヲ公用ノ爲收用又ハ使用スルコトヲ得

補助航海ニ使用シタル船舶ニ付テハ最終ノ航海ヲ終リタル日ヨリ三年間仍前項ノ規定ヲ適用ス

補償金額ニ對シ不服アル者ハ收用又ハ使用ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三月以内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ出訴ハ船舶ノ收用又ハ使用ヲ停止セス

第十二條 補助航海ニ使用スル船舶ハ航海補助金ヲ受ケテ航海スル期間及最終ノ航海ヲ終リタル日ヨリ三年間之ヲ外國人ニ讓渡シ貸渡シ又ハ擔保ニ供スルコトヲ得但シ其ノ船舶ニ對シ支給シタ

ル航海補助金ヲ償還シタルトキ、天災其ノ他ノ不可抗力ニ因リ航行ニ堪ヘサルトキ又ハ主務大臣ノ認可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十三條 左ノ事項ハ主務大臣之ヲ定ム

- 一 補助航海ノ起點、終點及寄港地
- 二 使用船舶ノ數、總噸數、速力、船齡及代船ニ關スル事項
- 三 航海度數、航海日數及發著日時ニ關スル事項
- 四 航海補助金ノ支給方法
- 五 義務ノ不履行ニ基ク航海補助金ノ減給、停止、廢止、償還又ハ其ノ他ノ處分ニ關スル事項

第十四條 主務大臣ハ補助航海ニ從事スル者ノ義務ニ屬スル事項ニ付テハ直ニ其ノ代理人又ハ船長ニ命令ヲ下スコトヲ得

第十五條 第十一條ノ規定ニ依ル船舶ノ收用若ハ使用ヲ拒ミタル者又ハ第十二條ノ規定ニ違反シタル者ハ二百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ且當該船舶ニ對シ支給シタル航海補助金ニ相當スル金額ヲ償還セシム

前項償還金ハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得但シ先取特權ノ順位ハ國稅ニ次クモ

ノトス

第十六條 明治三十三年法律第五十二號ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス

六

附 則

本法ハ明治四十三年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

航海獎勵法ハ之ヲ廢止ス但シ本法公布ノ際同法ニ依リ航海獎勵金ヲ受クル資格ヲ有スル船舶及同法ノ適用ヲ受クル爲製造中ノ船舶ニ關シテハ明治四十七年九月三十日迄同法ニ依リ航海獎勵金ヲ受クルコトヲ得

前項但書ノ規定ニ依リ航海獎勵金ヲ受ケタル船舶ニ對シテハ本法ニ依リ航海補助金ヲ支給セス

明治三十二年九月三十日以前ニ於テ帝國船籍ニ登録シタル外國製造ノ船舶ニ關シテハ第四條第二項ノ規定ヲ適用セス

補助航海ニ従事スル商事會社ニ關スル法律

明治四十三年三月  
法律第三十二號

遠洋航路補助法ニ依リ補助航海ニ従事スル商事會社ハ其ノ定款ヲ變更セムトスルトキ及業務ヲ執行スル社員、取締役又ハ監査役ヲ選定セムトスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ  
主務大臣ハ前項ニ掲ケタル會社ノ役員カ補助航海ニ關スル義務ヲ履行セス又ハ其ノ義務ヲ履行スルニ不適當ナル行爲アリト認ムルトキハ其ノ解任ヲ命スルコトヲ得

七

遠洋航路補助法施行細則

明治四十二年十二月  
逓信省令第五十六號

改正

明治四十三年三月  
省令第五十九號

大正三年五月  
省令第十四號

大正三年十二月  
省令第六十二號

大正四年十二月  
省令第五十六號

大正五年二月  
省令第五號

第一章 總則

第一條 遠洋航路補助法第一條ニ掲クル各航路ニ於テ補助航海ニ從事セシムル線路左ノ如シ

一 歐洲航路

アントワープ線

二 北米航路

ビューゼットサウンド線

桑港線

三 南米航路

西岸線

四 濠洲航路

メルボルン線

各線路ニ於ケル起點、終點並寄港地、使用船舶ノ數、總噸數並速力及航海度數ハ別表ニ依ル

逓信大臣ハ戰時中必要アリト認ムルトキハ一時別表ヲ變更スルコトアルヘシ

第二條 前條ノ各線路ニ於テ補助航海ニ從事セントスル者ハ願書ニ左ノ書類ヲ添ヘ之ヲ逓信省ニ差  
出スヘシ

一 當該線路ニ使用セントスル船舶ノ件名書(第一號書式)

二 營業目論見書(第二號書式)

第三條 商事會社ニ在テハ業務ヲ施行スル社員又ハ取締役ヨリ左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ添ヘ前  
條ノ書類ヲ差出スヘシ

一 會社ノ種類

二 社員又ハ株主ノ氏名

三 定款

四 業務擔當ノ任アル社員又ハ取締役及監査役ノ氏名



第四條 遞信大臣ハ前二條ノ書類ヲ審査シ補助航海ニ從事セシムルニ適當ナリト認ムル者ニ對シ補助航海命令書ヲ下付スヘシ

補助航海命令書ニハ其ノ從事スヘキ線路、命令期間、航海補助金ノ率及最高額、航海日數其ノ他遠洋航路補助法及本則ノ定ムル所ニ依リ同大臣ニ於テ必要ト認ムル事項ヲ定ム

本則ニ於テ受命者ト稱スルハ補助航海ニ從事スヘキコトヲ命セラレタル者ヲ謂ヒ受命線路ト稱スルハ補助航海ニ從事スヘキコトヲ命セラレタル線路ヲ謂フ

第五條 第一條ノ各線路ニ於ケル補助航海開始ノ時期及第二條ノ願書提出ノ時期ハ別ニ之ヲ定ム

第二章 使用船舶

第六條 補助航海ニ使用スル船舶ハ遞信大臣ノ認可ヲ受ケタルモノニ限ル

本則ニ於テ使用船舶ト稱スルハ前項ノ認可ヲ受ケタル船舶ヲ謂フ

第七條 受命者ニ於テ補助航海命令書ノ下付ヲ受ケタルトキハ補助航海ニ使用セントスル船舶ノ圖面及仕様書ヲ差出シ前條ノ認可ヲ出願スヘシ

前項ノ圖面ハ左ノ七種ニ分チ寸法ヲ附記シ各二通ツツ差出スヘシ但シ其ノ一通ハ蠟引布ヲ以テ調製シタルモノナルコトヲ要ス

一 船體中央橫截面圖

二 船體中心線縱截面圖及各甲板竝艙內平面圖

三 船體部諸管配置圖

四 汽機橫縱截面圖

五 汽罐橫縱截面圖

六 載貨重量圖

七 諸計算曲線圖

造船獎勵法ニ依リ又ハ既往ニ於ケル補助航海ノ受命ニ依リ圖面又ハ仕様書ヲ遞信省ニ差出シタル船舶ニ付テハ該圖面又ハ仕様書ニ變更ナキ場合ニ限り事由ヲ説明シテ其ノ添付ヲ省略スルコトヲ得

外國製造ノ船舶ニ付テハ其ノ使用ノ事由ヲ第一項ノ願書ニ附記スヘシ

第八條 遞信大臣ニ於テ前條ノ願書ヲ受ケタルトキハ検査官吏ヲシテ其ノ船舶ヲ検査セシメ受命線路ニ於ケル補助航海ニ適當ト認ムルトキハ其ノ使用ヲ認可スヘシ

前項ノ検査ハ遞信大臣ノ指定スル場所ニ於テ之ヲ執行ス

第九條 受命線路ニ使用スル目的ヲ以テ製造又ハ製造ノ計畫ニ著手シタル船舶ニ付第七條第一項ノ出願ヲ爲スニハ同條第二項第二號ノ圖面ヲ差出シ該船舶竣工ノ上同項第一號並第三號乃至第七號ノ圖面及仕様書ヲ差出スヘシ

前項ノ船舶ニ付遠洋航路補助法第四條第三項ニ掲クル船舶ノ設計ニ關スル認可ヲ受ケントスルトキハ願書ニ其ノ圖面及仕様書ヲ添ヘ之ヲ遞信省ニ差出スヘシ

遞信大臣ハ前項ノ船舶ニ付設計ノ變更ヲ命スルコトアルヘシ

第十條 遞信大臣ニ於テ前條ノ船舶ヲ受命線路ニ於ケル補助航海ニ適當ト認ムルトキハ第八條ノ規定ニ拘ラス其ノ使用ヲ認可スヘシ此ノ場合ニ於テハ該船舶竣工ノ上検査官吏ヲシテ検査セシメ其ノ成績ニ依リ認可ヲ取消スコトアルヘシ

第十一條 使用船舶ノ速力ハ自然通風ノ機關力ヲ以テ左ノ條件ニ依リ三海里以上ノ距離ニ於テ當該船舶ヲ六回航走セシメ毎回測定シタル速力ヲ平均シテ之ヲ定ム但シ回轉中ト雖モ常ニ機關ヲ全力ト爲スコトヲ要ス

一 艤裝ハ遞信大臣ノ適當ト認ムル状態ト爲スコト

二 喫水ハ遞信大臣ニ於テ當該船舶ニ付認定シタル載貨重量ノ二分ノ一以上ノ重量ヲ搭載シタル

状態ト爲スコト

遞信大臣ニ於テ必要ト認ムルトキハ船舶ノ首尾ニ於ケル喫水ノ差及機關ノ調整ニ關シ制限ヲ加フルコトアルヘシ

航海中常ニ使用スル目的ヲ以テ加速通風機ヲ備フル船舶ニシテ特ニ遞信大臣ノ認可ヲ得タルモノニ在テハ速力試験ニ該通風機ヲ使用スルコトヲ得

速力試験ノ執行中船舶カ天災其ノ他ノ事變ニ因リ速力ヲ減シ又ハ機關ノ運轉ヲ停止スルニ至リタルトキハ該試験ハ總テ之ヲ無効ト爲シ更ニ速力試験ヲ行フ

遞信大臣ニ於テ船體機關ノ構造ニ變更アリタル爲メ使用船舶ノ速力ニ變更ヲ生シタリト認ムルトキハ更ニ速力試験ノ執行ヲ命スヘシ但シ速力ニ變更ヲ生シタルモ航海補助金ノ算定ニ異動ナシト認ムル場合ハ此限ニ在ラス

第十二條 使用船舶ノ船齡ハ其ノ進水ノ日ヨリ起算ス但シ日ノ不明ナルモノハ其ノ月ノ一日、月ノ不明ナルモノハ其ノ年ノ一月ニ進水シタルモノト看做ス

第十三條 遞信大臣ハ何時タリトモ検査官吏ヲシテ使用船舶ヲ検査セシメ其ノ成績ニ依リ受命者ニ使用船舶ノ修繕ヲ命シ又ハ使用認可ヲ取消スコトアルヘシ

前項ニ依リ使用船舶ノ修繕ヲ命セラレタルトキハ受命者ハ遞信大臣ノ指定スル期間内ニ同大臣ノ命スル修繕ヲ爲スヘシ

第一項ニ依リ使用認可ヲ取消サレタルトキハ受命者ハ遞信大臣ノ指定スル期間内ニ本則ニ定ムル條件ニ適合スル船舶ヲ以テ之ヲ補充スヘシ

第十四條 使用船舶ノ喪失其ノ他ノ事由ニ因リ之ヲ使用スルコト能ハサルニ至リタルトキハ受命者ハ直ニ其ノ趣ヲ遞信省ニ届出ツヘシ

前條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十五條 遞信大臣ハ第九條第一項、第十三條第二項又ハ前條第二項ノ場合ニ期間ヲ指定シテ代船ノ使用ヲ命スルコトアルヘシ修繕其ノ他ノ事由ニ依リ一時使用船ヲ使用スルコト能ハサル場合ニ付亦同シ

受命者ハ前項ニ掲クル場合ニ於テ代船使用ノ認可ヲ出願スルコトヲ得

第十六條 受命者ニ於テ使用船舶ヲ變更セントスルトキハ其ノ事由ヲ具シ豫メ遞信大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十七條 第七條、第八條及第十一條ノ規定ハ第十三條第二項、第十四條第二項及前條ノ場合ニ之ヲ

準用ス

第十八條 受命者ニ於テ使用船舶ノ船體又ハ機關ニ變更ヲ加ヘントスルトキハ其ノ事由ヲ詳記シ圖面及仕様書ヲ差出シ豫メ遞信大臣ノ認可ヲ受ケ竣工ノ上遲滞ナク其ノ趣ヲ遞信省ニ届出ツヘシ  
使用船舶ニ損傷ヲ生シタルトキ又ハ之ニ修繕ヲ加ヘタルトキハ受命者又ハ船長ヨリ損傷ノ箇所及其ノ事由ヲ詳記シ修繕ヲ加ヘタル場合ニ於テハ修繕工事ノ仕様書ヲ添附シ遲滞ナク遞信大臣ニ届出ツヘシ

第十九條 本則ノ規定ニ依リ検査官吏船内ニ臨檢スルトキハ受命者又ハ船長ハ検査ニ必要ナル準備ヲ爲シ其ノ命令ヲ遵守スヘシ

第三章 航海

第二十條 受命者ハ受命線路ニ於ケル補助航海ヲ實施スル前一箇月ニ於テ發著日時表ヲ差出シ遞信大臣ノ認可ヲ受クヘシ

補助航海命令書下付ノ日ヨリ一箇月ニ滿タサル期間内ニ補助航海ヲ實施スヘキ場合ニ於テハ受命者ハ命令書ノ下付ヲ受ケタル後遲滞ナク發著日時表ヲ差出シ遞信大臣ノ認可ヲ受クヘシ

受命者ニ於テ發著日時表ヲ變更セントスルトキハ其ノ實施前二週間ニ於テ事由ヲ具シ遞信大臣ノ

認可ヲ受クヘシ

遞信大臣ニ於テ必要ト認ムルトキハ發著日時表ノ變更ヲ命スルコトアルヘシ  
天災其ノ他止ムコトヲ得サル事由ニ因リ發著日時表ニ從ヒ航海ヲ爲スコト能ハサルニ至リタルト  
キハ受命者ハ遲滯ナク其ノ事由ヲ具シ發著日時ノ變更ニ付遞信大臣ノ認可ヲ受クヘシ但シ事前ニ  
認可ヲ受クル暇ナキトキハ其ノ事由ヲ具シ追認ヲ受クルコトヲ得

第二十一條 受命者ニ於テ遠洋航路補助法第五條第一項ニ掲クル運賃ニ付認可ヲ受ケントスルトキハ  
豫メ旅客貨物運賃表ヲ調製シ之ヲ遞信大臣ニ差出スヘシ受命者ニ於テ之ヲ變更セントスルトキ亦同シ  
第二十二條 受命者ハ天災其ノ他ノ不可抗力ニ因ル場合ノ外使用船舶ヲ受命線路ノ起點、終點若ハ  
寄港地以外ノ場所ヘ寄港セシメ又ハ受命線路ヲ離レテ航行セシムルコトヲ得ス

受命者ニ於テ受命線路ニ於ケル寄港地ヲ増減シ又ハ之ヲ變更セントスルトキハ豫メ遞信大臣ノ認  
可ヲ受クヘシ受命者カ受命線路ノ起點又ハ終點ニ於テ發著日時表ニ定ムル碇泊時間内ニ使用船舶  
ヲ補助航海以外ノ航海ニ使用セントスルトキ亦同シ  
遞信大臣ニ於テ必要ト認ムルトキハ臨時ニ受命線路ニ於ケル起點、終點若ハ寄港地ノ變更又ハ寄  
港地ノ増加ヲ命スルコトアルヘシ

第二十三條 使用船舶カ受命線路ニ於ケル起點、終點及寄港地ニ發著スルトキハ郵便局所、外國ニ在  
テハ帝國領事館ニ届出テ發著ノ證明ヲ受クヘシ  
第二十四條 使用船舶ニハ遞信大臣ノ認可ヲ受ケタル航海日誌ヲ備ヘ當該船舶職員ヲシテ必要ノ事  
項ヲ記載セシメ一航海ヲ終リタル毎ニ前條ノ發著證明書ヲ添ヘ之ヲ遞信省ニ差出スヘシ

#### 第四章 通信

第二十五條 (削除)

第二十六條 受命者ハ遞信大臣ノ遞送ヲ命シタルモノノ外使用船舶ニ郵便物又ハ郵便用品ヲ搭載ス  
ルコトヲ得ス

第二十七條 受命者ハ遞信大臣ノ指定ニ從ヒ使用船舶ニ盜難、濕氣、火災其ノ他一切損害ノ虞ナキ場  
所ヲ擇ヒ相當ノ容積ヲ有シ且損害ノ豫防上適當ノ装置ヲ施シタル郵便室ヲ設ケ遞信大臣ヨリ遞送  
ヲ命セラレタル郵便物及郵便用品ヲ藏置スヘシ

受命者ハ使用船舶ニ見易ク且安全ナル場所ヲ擇ヒ成規ノ郵便函ヲ取付クヘシ

第二十八條 遞信大臣ニ於テ遠洋航路補助法第六條ニ依リ通信事務取扱ノ爲メ通信吏員ヲ使用船舶  
ニ乗船セシメタルトキハ受命者ハ同大臣ノ指定ニ從ヒ通信事務室ヲ設備スヘシ

受命者ハ前項ノ通信吏員ニ相當ノ寢室及食料ヲ供シ高等海員ニ準スル待遇ヲ爲スヘシ

第二十九條 遞信大臣ヨリ遞送ヲ命セラレタル郵便物並郵便用品及郵便函ニ投入ノ郵便物ハ通信吏員乗船スルトキハ該吏員ニ於テ、通信吏員乗船セサルトキハ該船舶ノ船長、一等運轉士又ハ事務長ニ於テ之カ取扱ヲ爲スヘシ郵便室及郵便函ノ開閉ニ付テモ亦同シ

第三十條 受命者ニ於テ遞送中ナルト船積又ハ陸揚中ナルトヲ問ハス郵便物又ハ郵便用品ヲ亡失毀損セシメタルトキハ其ノ損害ヲ辨償スヘシ但シ其ノ損害カ天災其ノ他ノ不可抗力又ハ通信吏員ノ過失ニ因リ生シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三十一條 航海中遭難其ノ他ノ事故ニ因リ遞信大臣ヨリ遞送ヲ命セラレタル郵便物又ハ郵便用品ヲ遞送スルコト能ハサルトキハ受命者ハ別ニ定ムル方法ニ依リ之ヲ遞送スヘシ第十三條又ハ第十四條ニ依リ遞信大臣ノ指定スル期間内ニ使用船舶ノ修繕又ハ補充ヲ爲ササルトキ亦同シ

第三十二條 受命者カ郵便物又ハ郵便用品遞送ノ命令ニ違背シタル爲メ遞信大臣ニ於テ他ノ方法ニ依リ該郵便物又ハ郵便用品ヲ遞送セシメタルトキハ受命者ハ因テ生シタル費用及損害ヲ辨償スヘシ

第三十三條 使用船舶カ受命線路ニ於ケル起點終點及寄港地ニ出入スルトキハ郵便旗章ヲ掲揚スヘシ第三十四條 郵便物及郵便用品ノ遞送授受ニ關シ本則ニ規定ナキ事項並無線電信ノ設備ニ關スル事

項ハ別ニ之ヲ定ム

第五章 施設

第二十五條 受命者ハ別ニ定ムル所ニ從ヒ遞信大臣ノ指定スル場所ニ營業上必要ナル海陸設備ヲ爲スヘシ海陸設備ト稱スルハ倉庫、埠頭、棧橋又ハ舢舨ノ類ヲ謂フ

第二十六條 受命者ハ受命線路ニ於ケル起點、終點及寄港地ニ支店又ハ代理店ヲ設置スヘシ受命者ニ於テ代理店ヲ設置セントスルトキハ其ノ店名、所在地名、海陸設備ヲ有スルトキハ其ノ明細及業務擔當人ノ氏名並外國人ナルトキハ其ノ國籍ヲ具シ豫メ遞信大臣ノ認可ヲ受クヘシ但シ既往ニ於テ補助航海ニ從事シタル爲既ニ認可ヲ受ケタルモノニ變更ナキ場合ニ於テハ其ノ事由ヲ疏明シ届出ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

受命者ニ於テ代理店ヲ變更セントスルトキ亦前項ニ同シ  
遞信大臣ニ於テ必要ト認ムルトキハ特ニ場所及設備ヲ指定シテ支店ヲ設置セシムルコトアルヘシ  
遞信大臣ニ於テ代理店ノ業務執行ヲ適當ナラスト認ムルトキハ第二項ノ認可ヲ取消スコトアルヘシ此ノ場合ニ於テハ受命者ハ遲滞ナク更ニ代理店ヲ選定シ其ノ認可ヲ出願スヘシ

第三十七條 受命者ハ受命線路ニ於ケル各支店及代理店ニ端艇ヲ備ヘ遞信大臣ノ指定スル支店又ハ

代理店ニハ小蒸氣船又ハ發動機船ヲ備フヘシ

第三十八條 受命者ハ使用船舶ニ遞信大臣ノ認可ヲ受ケタル申告簿ヲ備ヘ船長又ハ一等運轉士之ヲ保管シ旅客ノ請求アルトキハ何時ニテモ之ヲ提出スヘシ

申告簿ハ一航海ヲ終リタル毎ニ遞信大臣ノ檢閲ヲ受クヘシ

第三十九條 受命者ハ遞信大臣ノ指定アルトキハ使用船舶ニ一名以上ノ醫員ヲ乗組マシムヘシ

第六章 航海修業生

第四十條 遠洋航路補助法第八條ニ依リ航海修業生ヲ使用船舶ニ乗組マシムルトキハ受命者ハ之ニ食料ヲ給與シ及相當ノ居室並寢具ヲ貸與スルノ外左ノ割合ニ依リ手當ヲ支給スヘシ

一 海上履歷一年未滿ノ者月額金三圓以上

二 海上履歷二年未滿ノ者月額金五圓以上

三 海上履歷二年以上ノ者月額金七圓以上

第四十一條 航海修業生ヲ乗組マシメタル使用船舶ノ船長ハ該修業生ヲシテ技術ヲ練習セシメ其ノ品行及技能ニ注意シ六箇月毎ニ其ノ狀況ヲ遞信大臣ニ報告スヘシ但シ六箇月ニ達セスシテ下船シタルトキハ下船ノ際之ヲ報告スヘシ

第四十二條 航海修業生カ執務ノ爲メ疾病ニ罹リ又ハ傷痍ヲ被リタルトキハ受命者ハ三ヶ月ヲ超エサル期間醫藥ノ費用ヲ給與スヘシ

第四十三條 受命者ハ遞信大臣ノ認可ヲ受クルニ非レハ航海修業生ヲ下船セシムルコトヲ得ス

止ムコトヲ得サル事故ニ因リ前項ノ認可ヲ受クル暇ナク航海修業生ヲ下船セシメタルトキハ其ノ事由ヲ詳記シ遞信大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第四十四條 受命者ニ於テ航海修業生ヲ下船セシメタルトキハ下船地ヨリ遞信大臣ノ指定スル地迄ノ旅費ヲ支給スヘシ但シ失行ニ因リ下船セシメタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第七章 従業者

第四十五條 受命者ハ各線命令書ノ定ムル所ニ從ヒ本店並支店ノ事務員名簿及使用船舶ノ乗組員名簿ヲ遞信省ニ差出スヘシ

第四十六條 受命者ニ於テ其ノ本店若ハ支店ノ事務員又ハ使用船舶ノ職員トシテ外國人ヲ使用セントスルトキハ左ニ掲クル事項ヲ具シ遞信大臣ノ認可ヲ受クヘシ但シ既往ニ於テ補助航海ニ従事シタル爲既ニ認可ヲ受ケタルモノニ變更ナキ場合ニ於テハ其ノ事由ヲ説明シ届出ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

一 使用ノ理由

二 契約ノ條項

三 被雇者ノ國籍、氏名、現住所、生年月及履歷

四 海技免狀ヲ受有スル者ナルトキハ其ノ免狀ノ寫

受命者ニ於テ前項ノ認可ヲ受ケ使用シタル外國人ヲ解雇シタルトキハ直ニ其ノ趣ヲ遞信省ニ届出ツヘシ

第四十七條 遠洋航路補助法第九條第二項ノ場合ニ於テハ其ノ事由ヲ詳記シ帝國領事館ノ公認ヲ受ケ事後遲滞ナク受命者又ハ船長ヨリ前條第一項ニ準シ認可ヲ出願スヘシ

第四十八條 遞信大臣ニ於テ受命者ノ本店若ハ支店ノ事務員又ハ使用船舶ノ乗組員カ職務ニ關スル過失、怠慢其ノ他ノ失行アリト認ムルトキハ其ノ交代ヲ命スルコトアルヘシ  
前項ノ規定ハ代理店ノ業務擔當人ニ之ヲ準用ス

第八章 船舶ノ收用及使用

第四十九條 遞信大臣ニ於テ遠洋航路補助法第十一條第一項又ハ第二項ニ依リ船舶ヲ收用又ハ使用セントスルトキハ回航ノ期日及場所ヲ定メ該船舶ノ所有者又ハ船長ニ命令スヘシ  
船舶所有者又ハ船長ハ前項ノ命令ニ從ヒ本船ヲ回航セシムヘシ

第九章 航海補助金

第五十條 航海補助金ハ一航海ヲ終リタル毎ニ之ヲ支給ス

受命者ニ於テ航海補助金ノ支給ヲ受ケントスルトキハ航海補助金請求書ヲ遞信省ニ差出スヘシ

第五十一條 航海里數ハ水路部刊行ノ海圖ニ就キ遞信大臣ノ適當ト認ムル方法ニ據リ之ヲ算定ス但シ水路部刊行ノ海圖ナキ航路ニ付テハ同大臣ノ適當ト認ムル外國政府刊行ノ海圖ニ依ル

第五十二條 第二十二條第二項ノ認可ヲ受ケタル場合ニ於テ航海里數ヲ増加スルコトアルモ之ニ對シ航海補助金ヲ支給セス

第十章 監理及處分

第五十三條 受命者ハ通貨、政府ノ公債證書又ハ遞信大臣ニ於テ適當ト認ムル其ノ他ノ公債證書ヲ以テ保證金ヲ遞信省ニ差出スヘシ

保證金ノ額ハ各線命令書ノ定ムル所ニ依ル

第五十四條 遠洋航路補助法第十條第一項ノ收支計算書及營業狀況報告書ハ各線命令書ノ定ムル所ニ從ヒ受命線路ニ付一營業期毎ニ之ヲ調製シ當該營業期ヲ終リタル日ヨリ九十日以内ニ之ヲ遞信省ニ差出スヘシ

第五十四條ノ二 受命者ニ於テ明治四十三年法律第三十二號ニ依リ定款變更ノ認可ヲ受ケントスルトキハ其ノ理由ヲ具シタル願書ヲ、役員選定ノ認可ヲ受ケントスルトキハ其ノ氏名及住所ヲ具シタル願書ニ其ノ履歷書ヲ添ヘ之ヲ遞信大臣ニ差出スヘシ

第五十五條 受命者ニ於テ受命線路ノ航海運輸ニ關シ三箇月以上繼續スル契約ヲ締結セントスルトキハ其ノ契約條項ヲ具シ豫メ遞信大臣ノ認可ヲ受クヘシ但シ既往ニ於テ補助航海ニ從事シタル爲既ニ認可ヲ受ケタルモノニ變更ナキ場合ニ於テハ其ノ事由ヲ疏明シ届出ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得 受命者ニ於テ前項ノ契約ノ條項ヲ變更セントスルトキハ豫メ遞信大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第五十六條 補助航海ニ使用シ又ハ使用シタル船舶ニ付遠洋航路補助法第十二條ニ掲クル認可ヲ受ケントスルトキハ該船ノ所有者ヨリ其ノ事由ヲ具シ遞信大臣ニ出願スヘシ 天災其ノ他ノ不可抗力ニ因リ船舶カ航行ニ堪ヘサル場合ニ於テ遠洋航路補助法第十二條ニ掲クル處分ヲ爲シタルトキハ該船ノ船長又ハ所有者ヨリ其ノ事由ヲ具シ管海官廳、外國ニ在テハ帝國領事館ノ公認ヲ受ケ遞信省ニ届出ツヘシ

前二項ニ該當スル場合ノ外使用船舶ヲ讓渡シ、貸渡シ若ハ擔保ニ供シ又ハ其ノ最終ノ航海ヲ終リタル日ヨリ三年内ニ之ヲ讓渡シ、貸渡シ若ハ擔保ニ供シタルトキハ該船ノ所有者ヨリ其ノ顛末ヲ

具シ之ヲ遞信省ニ届出ツヘシ

第五十七條 遞信大臣ニ於テ遠洋航路補助法第六條ニ依リ航路視察ノ爲メ吏員ヲ使用船舶ニ乗船セシムルトキハ受命者ハ之ニ相當ノ寢室及食料ヲ供シ一等船客ニ準スル待遇ヲ爲スヘシ

第五十八條 受命者、其ノ代理人又ハ船長ニ於テ遠洋航路補助法、本則及各線命令書ニ定ムル義務ニ違背シタルトキハ遞信大臣ハ各線命令書ノ定ムル所ニ依リ受命者ヨリ違約金ヲ徵收スヘシ

遞信大臣ハ前項ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ航海補助金ノ支給ヲ停止スルコトアルヘシ 第五十九條 違約金及第三十條又ハ第三十二條ニ依リ受命者ノ負擔スヘキ辨償金ハ毎回支給スル補助金又ハ保證金ヨリ差引キ仍不足アルトキハ受命者ヨリ之ヲ徵收ス

前項ニ依リ違約金又ハ辨償金ヲ保證金ヨリ差引キタルトキハ受命者ハ一箇月以内ニ之ヲ補充スヘシ 第六十條 受命者ニ於テ左ノ各號ノ場合ニ該當スルトキハ遞信大臣ハ補助航海命令ヲ解除シ航海補助金ノ支給ヲ廢止スヘシ

一 著シク遠洋航路補助法、本則及各線命令書ニ定ムル義務ヲ怠リ又ハ其ノ義務ヲ履行スルニ不適當ナリト認ムヘキ事實アリタルトキ

一ノ二 明治四十三年法律第三十二號又ハ同法ニ基キテ發スル命令ニ違背シタルトキ



- 二 受命線路ニ於ケル補助航海ニ關スル義務ノ下請負ヲ爲サシメタルトキ
  - 三 受命線路ノ航海運輸ニ關シ外國人ヲ組員ト爲シタルトキ
  - 四 破産シタルトキ
  - 五 遠洋航路補助法第十一條ニ依ル船舶ノ收用又ハ使用ヲ拒ミタルトキ
  - 六 遠洋航路補助法第十二條ニ違背シタルトキ
- 前項第一號乃至第三號ノ場合ニ於テハ解除ノ原因タル事實ノ生シタル前一年間ニ支給シタル航海補助金ニ相當スル金額ヲ償還セシメ且保證金ヲ沒收スルコトアルヘシ
- 第一項第五號及第六號ノ場合ニ於テハ遠洋航路補助法第十五條ニ依リ航海補助金ニ相當スル金額ヲ償還セシムル外保證金ヲ沒收スヘシ

第十一章 雜 則

第六十一條 受命者カ命令期間内ニ死亡シタル場合ニ於テ受命者ノ相續人カ被相續人ノ從事シタル補助航海ヲ繼續セントスルトキハ相續人タルコトヲ證明スヘキ戸籍謄本ヲ添へ第二條ノ書類ヲ差出スヘシ但シ本則ニ依リ願書ニ添附スヘキ書類中被相續人カ差出シタルモノニシテ且本條ノ出願ヲ爲ス際變更ナキモノニ限り之ヲ添附スルコトヲ要セス

第四條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用ス

第六十二條 第二條ニ依リ差出シタル書類ニ記載スル本店若ハ支店ノ所在地、第三條第二號ニ掲クル事項又ハ第三十六條ニ依リ差出シタル書類ニ記載スル代理店ノ店名、所在地若ハ業務擔當人ニ變更ヲ生シタルトキハ受命者ハ遲滞ナク其ノ趣ヲ遞信省ニ届出ツヘシ但シ第三條第二號ノ事項ニ付テハ外國人ヲ社員又ハ株主ト爲シタル場合ヲ除ク外一年二回取纏メ届出ツルコトヲ得

第六十二條ノ二 業務ヲ執行スル社員、取締役又ハ監査役カ死亡其ノ他ノ事由ニ因リ退任シタルトキハ受命者ハ遲滞ナク其ノ趣ヲ遞信省ニ届出ツヘシ

第六十三條 本則ニ依リ帝國領事館ニ就キ爲スヘキ手續ハ帝國領事館ノ設ナキ地ニ在テハ外國官廳ニ就キ之ヲ爲スヘシ

第六十四條 本則ニ於テ支店ト稱スルハ出張所其ノ他名義ノ何タルヲ問ハス受命者ニ於テ業務ヲ取扱フ爲メ設クル營業所ヲ謂フ

附 則

第六十五條 本則ハ明治四十三年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第六十六條 遠洋航路補助法施行前ニ於テ第十一條ニ定ムル所ト同一ノ方法ニ依リ速力試驗ヲ執行

シタル船舶ニ付テハ遞信大臣ノ認可ヲ受ケ速力試験ヲ省略スルコトヲ得

附 則 (明治四十三年三月省令第五十九號ノ附則)

本令施行ノ際遠洋航路補助航海ニ従事スル商事會社ハ本令施行ノ日ヨリ二週間内ニ其ノ監査役ノ氏名ヲ遞信省ニ届出ツヘシ

附 則 (大正三年五月省令第一四號ノ附則)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附 則 (大正三年十二月省令第六十二號ノ附則)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ノ命令ニ依リ補助航海ニ従事スル者ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

附 則 (大正四年十二月省令第五十六號ノ附則)

本令ハ來大正五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令公布前ノ命令ニ依リ補助航海ニ従事スル者ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

附 則 (大正五年二月省令第五號ノ附則)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(別表)

線路	起點	終點	寄港地	數	使用船舶 總噸數	速度(時間)	航海度數
歐洲航路 「アントワープ」線	橫濱	「アントワープ」	往航 神戶、門司、上海、香港、新嘉坡、 蘇士、 「ボートサイド」、 馬耳塞、倫敦、 「アントワープ」、 「ミッドルズボロー」、 復航 倫敦、馬耳塞、 「ボートサイド」、 蘇士、 「コロンボ」、 新嘉坡、香港、神戶	十一艘	七千五百噸以上 一萬二千噸以下	十五海里以上 十六海里以下	每二週一回 十六航海
北米航路 「ビューゼット」線 「サウンド」線	西廻 橫濱 香 港 東廻 橫濱 「タコマ」	神戶、門司、上海	「ザキクトリア」、「シャトル」	六艘	五千五百噸以上 九千七百噸以下	十四海里以上 十六海里以下	每二週一回 十六航海
北米航路 桑 港 線	西廻 橫濱 香 港 東廻 橫濱 桑 港	神戶、長崎、上海	「ホノルル」	三艘	一萬二千五百噸以上 二萬三千五百噸以下	十八海里以上 二十海里以下	每四週一回 以上一年期 間十四航海
南米航路 西 岸 線	西廻 橫濱 香 港 東廻 橫濱 「バルパライソ」	神戶、門司	「ホノルル」、「サリナクルス」、「カイヤチ」、「イキーク」	三艘	六千噸以上 九千七百噸以下	十三海里以上 十五海里以下	每二箇月一回 一年期間 六航海
濠洲航路 「メルボルン」線	橫濱	「メルボルン」	神戶、長崎、香港、 「マニラ」、 「サンボアンガ」、 「サステール」、 島、 「タウンスグキル」、 「プリズベン」、「シドニー」	三艘	五千噸以上 七千五百噸以下	十五海里以上 十七海里以下	每一箇月一回 一年期間 十二航海

(第一號書式)

船舶件名書

- 一 船名
- 二 總噸數
- 三 速力
- 四 甲板ノ層數及種類
- 五 二重底
- 六 機關ノ種類
- 七 製造地名
- 八 進水ノ年月日
- 九 所有者ノ氏名又ハ名稱及共有ノ場合ニ於テハ其ノ持分  
右ノ通候也

氏 名 印

備考

年 月 日

製造中又ハ製造計畫中ノ船舶ニ付テハ第一號乃至第八號ノ事項ニ關シ其ノ豫定ヲ記入シ且竣工ノ時期ヲ記載スヘシ又船舶検査法ニ依ル検査ヲ受ケサル船舶ニ付テハ仕様ノ大要ヲ記入スヘシ

(第二號書式)

何線營業目論見書

- 一 起點、終點及寄港地ニ於ケル海陸設備ノ現況及將來ノ計畫

何 地

陸上設備

海上設備

- 二 旅客、貨物運搬見込(一航海分及一箇年分)

旅客員數

一等客

二等客

三等客

貨物員數

何品  
何品

三 收支豫算（一航海分及一箇年分）  
四 營業事務所及店員

本店所在地

同事務員氏名

支店所在地

同事務員氏名

出張所所在地

同事務員氏名

代理店所在地

同業務擔當人氏名

右ノ通候也

年月日

氏名印

備考

外國人タル事務員及業務擔當人ニ付テハ其ノ國籍ヲ附記スヘシ  
支店出張所及代理店ハ當該線路ニ於ケルモノヲ謂フ

造船獎勵法

明治二十九年三月  
法律第十六號

改正

明治四十二年三月  
法律第十六號

第一條 帝國臣民又ハ帝國臣民ノミヲ社員若ハ株主トスル商事會社ニシテ遞信大臣ノ定ムル資格ヲ備フル造船所ヲ設ケ船舶ヲ製造スル者ニハ此ノ法律ノ規程ニ依リ其ノ製造船舶ニ對シ造船獎勵金ヲ交付ス

第二條 此ノ法律ニ依リ造船獎勵金ヲ受クヘキ船舶ハ鋼製ニシテ總噸數一千噸以上ヲ有シ遞信大臣ノ定ムル造船規程ニ從ヒ其ノ監督ヲ受ケ製造シタルモノニ限ル

第三條 造船獎勵金ハ船體總噸數一噸ニ付金十一圓乃至金二十二圓ノ範圍内ニ於テ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ支給シ其ノ機關ヲ併セ製造シタル場合ニハ一實馬力ニ付金五圓ヲ増給ス但シ帝國内ノ他ノ工場ニ於テ機關ヲ製造セシメタルトキト雖豫メ遞信大臣ノ許可ヲ得タルトキ亦同シ

第四條 造船獎勵金ヲ受クヘキ船舶ノ船體、機關及艤裝品ニハ遞信大臣ノ定ムル規程ニ依ルノ外外國品ヲ供用スルコトヲ得ス

第五條 詐偽ノ所爲ヲ以テ造船獎勵金ヲ受ケタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役及二百圓以上千圓以

下ノ罰金ニ處シ且獎勵金ニ相當スル金額ヲ償還セシム

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第一項ノ償還金ハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得但シ先取特權ノ順位ハ國稅ニ次クモノトス

第六條 此ノ法律ヲ犯シタル者ニハ刑法併合罪ノ例ヲ用キス

第七條 前二條ノ罰則ハ商事會社ニ在テハ其ノ所爲ヲ爲シタル業務擔當ノ任アル社員若ハ取締役ニ之ヲ適用ス

第八條 此ノ法律ハ明治四十三年一月一日ヨリ十年間之ヲ施行ス

附 則

本法ハ明治四十三年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

本法公布前認許證書ノ交付ヲ申請シ本法施行前其ノ交付ヲ受ケ製造ニ著手シタル船舶ニ關シテハ從前ノ例ニ依ル

第四條中艤裝品ニ關スル規定ハ本法施行ノ際製造中ノ船舶ニ關シテハ之ヲ適用セス

造船獎勵法施行細則

明治四十二年十二月  
遞信省令第五十五號

改正

大正四年六月  
省令第二十七號

第一條 造船獎勵法ニ依リ造船獎勵金ヲ受ケントスル者ハ願書ニ左ノ書類ヲ添ヘ之ヲ遞信省ニ差出スヘシ

- 一 船舶件名書(第一號書式)
- 二 船體機關製造仕樣書
- 三 圖面
- 四 資格明細書

第二條 資格明細書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 造船所ノ位置
- 二 工場、船臺及船渠ノ設備(略圖ヲ添附スヘシ)
- 三 船體及機關ヲ製造スルニ必要ナル機械ノ種類、數及力
- 四 船體專任技師及機關專任技師ノ族籍、氏名及履歷

第三條 圖面ハ寸法ヲ附記シ各二通ツツ差出スヘシ但シ其ノ一通ハ蠟引布ヲ以テ調製シタルモノナルコトヲ要ス

汽船ニ在テハ左ノ十三種ノ圖面ヲ差出スヘシ

- 一 船體線圖
- 二 船體橫截面圖(中央部、機關室及正繪口ニ於ケル)
- 三 船體中心線縱截面圖及各甲板竝艙內平面圖
- 四 船體中心線縱截面ノ鐵鋼材構造配置圖
- 五 船體各甲板及艙內平面ノ鐵鋼材構造配置圖
- 六 外板展開圖
- 七 二重底內底板展開圖
- 八 支水隔壁圖
- 九 舵、舵柄、舵柄弧、車軸支肘、船首材及船尾骨材圖
- 十 汽機圖(汽機、冷汽器及附屬唧筒ノ縱截面、橫截面及平截面ヲ記載シ且、タービン汽機ニ在テハ注油裝置ヲ記載スヘシ)
- 十一 滑瓣調整線圖

十二 汽鐘圖(縦截面、横截面、前面、背面及各接合ヲ記載スヘシ)

十三 車軸、船尾管及推進器圖

帆船ニ在テハ前項第一號乃至第九號ノ圖面、鐵鋼製橋竝帆架展開圖及裝帆圖ヲ差出スヘシ

機關ヲ有スル帆船ニ在テハ第二項各號ノ圖面、鐵鋼製橋竝帆架展開圖及裝帆圖ヲ差出スヘシ

第四條 商事會社ニ在テハ業務擔當ノ任アル社員又ハ取締役ヨリ左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ添ヘ

第一條ノ書類ヲ差出スヘシ

一 會社ノ種類

二 社員又ハ株主ノ氏名

三 定款

四 業務擔當ノ任アル社員又ハ取締役ノ氏名

第五條 造船獎勵法第三條ノ但書ニ依リ他ノ工場ニ於テ機關ヲ製造セシメントスル者ハ願書ニ其ノ

旨ヲ記載シ前數條ノ書類ノ外其ノ工場ノ位置竝面積、機關ヲ製造スルニ必要ナル機械ノ種類、數竝

力、該工場ノ機關專任技師ノ族籍、氏名竝履歷ヲ記載シタル書面及製造請負契約書ヲ差出スヘシ

第六條 造船獎勵金ヲ受ケントスル者ハ左ノ資格ヲ備フル造船所ヲ有スル者ナルコトヲ要ス

一 造船獎勵金ヲ受ケントスル船舶ヲ製造スルニ必要ナル工場、船臺又ハ船渠及機械ヲ備フルコト

ト

二 船體專任技師及機關專任技師各一人以上ヲ置クコト

造船獎勵法第三條但書ニ依リ機關ヲ製造セシムルコトヲ得ル工場ハ左ノ資格ヲ備フルモノナルコトヲ要ス

トヲ要ス

一 造船獎勵金ヲ受ケントスル船舶ノ機關ヲ製造スルニ必要ナル工場及機械ヲ備フルコト

二 機關專任技師一人以上ヲ置クコト

第七條 前條ニ定ムル技師ハ甲種技師及乙種技師ノ二種トス

甲種技師ハ甲種船又ハ乙種船ノ船體若ハ機關ヲ製造スル場合ニ於テ、乙種技師ハ總噸數三千噸未

滿ノ乙種船ノ船體又ハ機關ヲ製造スル場合ニ於テ專任技師ト爲ルモノトス

第七條ノ二 甲種技師ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ナルコトヲ要ス

一 帝國大學又ハ之ト同等以上ノ學科程度ヲ備フル學校ニ於テ造船學、機械工學若ハ船用機關學

ヲ修メ之ヲ卒業シ三箇年以上船體又ハ機關ノ製造ニ從事シタル者

二 前號ニ掲クル學校ニ於テ造船學、機械工學又ハ船用機關學ヲ修メ之ヲ卒業シ五箇年以上船體

又ハ機關ノ修繕、製造ノ監督若ハ検査ニ從事シタル者

三 六箇年以上船體又ハ機關ノ製造ニ從事シ第一號ニ掲クル學校ノ學科程度ニ準シ遞信大臣ノ定ムル試験ニ合格シタル者

四 八箇年以上船體又ハ機關ノ修繕、製造ノ監督若ハ検査ニ從事シ第一號ニ掲クル學校ノ學科程度ニ準シ遞信大臣ノ定ムル試験ニ合格シタル者

前項第一號ニ該當スル年數ハ、第二號ノ年數ニ、第三號ニ該當スル年數ハ、第四號ノ年數ニ之ヲ通算ス

第七條ノ三 乙種技師ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ナルコトヲ要ス

一 官立實業專門學校又ハ之ト同等以上ノ學科程度ヲ備フル學校ニ於テ造船學、機械工學若ハ船用機關學ヲ修メ之ヲ卒業シ五箇年以上船體又ハ機關ノ製造ニ從事シタル者

二 前號ニ掲クル學校ニ於テ造船學、機械工學又ハ船用機關學ヲ修メ之ヲ卒業シ七箇年以上船體又ハ機關ノ修繕、製造ノ監督若ハ検査ニ從事シタル者

三 八箇年以上船體又ハ機關ノ製造ニ從事シ第一號ニ掲クル學校ノ學科程度ニ準シ遞信大臣ノ定ムル試験ニ合格シタル者

四 十箇年以上船體又ハ機關ノ修繕、製造ノ監督若ハ検査ニ從事シ第一號ニ掲クル學校ノ學科程度ニ準シ遞信大臣ノ定ムル試験ニ合格シタル者

前項第一號ニ該當スル年數ハ、第二號ノ年數ニ、第三號ニ該當スル年數ハ、第四號ノ年數ニ之ヲ通算ス

第七條ノ四 前二條ニ定ムル船體又ハ機關ノ製造、修繕、製造ノ監督若ハ検査ニ從事シタル履歴ハ遞信大臣ノ適當ト認ムルモノナルコトヲ要ス

第八條 遞信大臣ニ於テ第一條、第四條又ハ第五條ノ書類ヲ受理スヘキモノト認ムルトキハ検査官吏ヲシテ造船所又ハ機關工場ノ資格、製造仕様書及圖面ヲ調査セシムヘシ

第九條 検査官吏ニ於テ製造仕様書及圖面ヲ適當ナラスト認ムルトキハ之カ訂正若ハ新規調製ヲ命シ又必要ト認ムルトキハ第三條ニ掲ケサル圖面ヲ差出サシムルコトヲ得

検査官吏ニ於テ必要ト認ムルトキハ造船所又ハ機關工場ニ臨檢スルコトヲ得

第十條 遞信大臣ニ於テ検査官吏ノ報告ニ依リ造船獎勵金ヲ下付スヘキモノト認ムルトキハ製造船舶ニ對シ其ノ種類資格ヲ定メ出願人ニ第二號書式ノ認許證書ヲ下付スヘシ

第十一條 船舶ノ種類ハ分チテ二種トシ左ノ標準ニ依リ之ヲ定ム



- 一 甲種船 五十箇以上ノ一等若ハ二等旅客用寢臺ヲ有スルモノ又ハ總噸數百噸若ハ其ノ未滿ニ付一箇以上ノ一等若ハ二等旅客用寢臺ヲ有スルモノ
  - 二 乙種船 前號ニ該當セサルモノ
- 船舶ノ資格ハ分チテ四級トシ左ノ標準ニ依リ之ヲ定ム
- 一 第一級船 造船規程及船舶検査規程ニ定ムル第一級船ノ規定ニ合格シ且遠洋航路ニ適スル設備ヲ有スルモノ
  - 二 第二級船 造船規程及船舶検査規定ニ定ムル第二級船ノ規定ニ合格シ且近海航路ニ適スル設備ヲ有スルモノ
  - 三 第三級船 造船規程及船舶検査規程ニ定ムル第三級船ノ規定ニ合格シ且沿海航路ニ適スル設備ヲ有スルモノ
  - 四 第四級船 造船規程及船舶検査規程ニ定ムル第四級船ノ規定ニ合格シ且平水航路ニ適スル設備ヲ有スルモノ

第十二條 認許證書ヲ受有スル者ハ其ノ船舶ノ製造ニ關シ検査官吏ノ監督ヲ受クヘシ  
 遞信大臣ニ於テ造船所又ハ機關工場カ検査官吏ノ指揮ニ背戾シ又ハ其ノ命令ヲ遵奉セサル所爲ア

リト認ムルトキハ認許證書ノ返納ヲ命スルコトアルヘシ

第十三條 認許證書ヲ受ケ製造スル船舶ニ於テハ其ノ船體及機關ニ左ニ掲クルモノノ外外國製品ヲ供用スルコトヲ得ス

- 一 總噸數三千噸以上ノ船舶ニ用ユル船首材、船尾骨材、舵、舵柄、舵骨及雙螺旋軸支肘
  - 二 三螺旋軸支肘
  - 三 徑七吋以上ノ諸軸
  - 四 諸發條
  - 五 皺形及肋形火爐
  - 六 「タービン」汽機ノ「ホキール」、「スピンドル」、「ブレード」及「バケット」
- 外國ニ於テ製造セラレタル專賣品及新案品ハ遞信大臣ノ認可ヲ受ケタル場合ニ限り認許證書ヲ受ケ製造スル船舶ノ船體及機關ニ之ヲ供用スルコトヲ得
- 第十四條 認許證書ヲ受ケ製造スル船舶ニ於テハ左ニ掲クル艤裝品ニ外國製品ヲ供用スルコトヲ得ス

- 一 麻索及「マニラ」索

- 二 帆布製品
- 三 總噸數五千噸未滿ノ船舶ニ用ユル揚錨機具
- 四 揚貨機具
- 五 總噸數五千噸未滿ノ船舶ニ用ユル操舵機具
- 六 繫船機具
- 七 飛輪唧筒
- 八 手用塗水唧筒
- 九 消火唧筒
- 十 端艇鉤及其ノ他ノ鉤
- 十一 端艇及救命具
- 十二 舷窓及船室窓
- 十三 通風器
- 十四 電氣裝置
- 十五 副冷汽器

- 十六 蒸氣唧筒
- 十七 揚灰機
- 十八 發電機
- 十九 瓣及嘴子

專賣品又ハ新案品ヲ使用セントスル場合其ノ他特殊ノ事情アル場合ニ於テ遞信大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ認許證書ヲ受ケ製造スル船舶ノ艤裝品ニ外國製品ヲ供用スルコトヲ得

第十五條 第一條、第四條又ハ第五條ノ書類ニ記載シタル事項ニ訂正ヲ要スルモノアルトキ又ハ之ニ變更ヲ生シタルトキハ認許證書ヲ受有スル者ハ遲滯ナク其ノ事由ヲ具シ遞信省ニ届出ツヘシ但シ船體、機關ノ構造ニ變更ヲ生スル場合ニハ其ノ事由ヲ具シ豫メ遞信大臣ニ願出テ認可ヲ受クヘシ

第十六條 遞信大臣ハ前條ノ届出又ハ出願ヲ受ケタル場合ニ於テ認許證書ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生スルモノト認ムルトキハ之ヲ書換ヘ交付スヘシ

遞信大臣ハ前項ニ掲クル場合ニ於テ造船獎勵金ヲ下付スヘキモノニアラスト認ムルトキハ認許證書ノ返納ヲ命スヘシ

第十七條 認許證書カ毀損又ハ滅失シタルトキハ之ヲ受有スル者ハ遲滞ナク其ノ事由ヲ具シ遞信大臣ニ該證書ノ書換又ハ再交付ヲ出願スヘシ

第十八條 遞信大臣ニ於テ認許證書ヲ受有スル者カ其ノ營業ヲ停止シ又ハ該證書ヲ受ケテ製造スル船舶ノ工事ヲ中止シタル爲メ竣工ノ見込ナシト認ムルトキハ該證書ノ返納ヲ命スルコトアルヘシ

第十九條 認許證書ヲ受有スル者カ左ノ場合ニ該當スルトキハ遲滞ナク其ノ事由ヲ具シ遞信大臣ニ該證書ヲ返納スヘシ

一 營業ヲ廢止シタルトキ

二 造船獎勵金ヲ受クル資格ヲ失ヒタルトキ

三 第十二條第二項、第十六條第二項又ハ前條ノ命令アリタルトキ

認許證書ヲ受有スル者カ死亡シタルトキハ其ノ家督相續人、破産シタルトキハ其ノ破産管理人、解散シタルトキハ其ノ清算人ヨリ遲滞ナク其ノ事由ヲ具シ遞信大臣ニ該證書ヲ返納スヘシ

第十六條第一項又ハ第十七條ニ依リ認許證書ノ書換交付ヲ受ケタル者ハ遲滞ナク其ノ事由ヲ具シ遞信大臣ニ舊證書ヲ返納スヘシ

第二十條 認許證書ヲ返納スヘキ場合ニ於テ之ヲ怠リタルトキハ遞信大臣ハ該證書ノ無効ナルコトヲ官報ニ公告スヘシ

トヲ官報ニ公告スヘシ

第二十一條 認許證書ヲ受有スル者ノ死亡其ノ他ノ事由ニ因リ該證書ヲ受ケ製造スル船舶ノ製造ヲ承繼スル者カ造船獎勵金ヲ受ケントスルトキハ該船舶ノ製造ヲ承繼スル者ナルコトヲ證スル書面ヲ添へ第一條ノ書類ヲ差出スヘシ但シ本則ニ依リ願書ニ添附スヘキ書類中承繼者カ差出シタルモノニシテ且本條ノ出願ヲ爲ス際變更ナキモノニ限り之ヲ添附スルコトヲ要セス

遞信大臣ハ前項ノ場合ニ於テ造船獎勵金ヲ下付スヘキモノト認ムルトキハ認許證書ヲ下付スヘシ  
第二十二條 検査官吏ハ適當ト認ムル時期ニ於テ認許證書ヲ受ケ製造スル船舶ノ總噸數ヲ測定シ、試運轉ヲ執行セシメ且實馬力ヲ算定スヘシ

第二十三條 總噸數ハ船舶積量測定規則ニ依リ之ヲ測定スヘシ

試運轉ハ左ノ條件ニ依リ三海里以上ノ距離ニ於テ船舶ヲ六回航走セシメテ之ヲ執行シ實馬力ハ毎回各汽機ヨリ取りタル示壓圖ニ依リ算定シタル實馬力ヲ平均シテ之ヲ定ム但シ回轉中ト雖モ常ニ機關ヲ全力ト爲スコトヲ要ス

一 艤裝ハ遞信大臣ノ適當ト認ムル状態ト爲スコト

二 喫水ハ遞信大臣ニ於テ當該船舶ニ付認定シタル載貨重量ノ五分ノ一以上ノ重量ヲ搭載シタル

状態ト爲スコト

實馬力試験ハ遞信大臣ノ認可ヲ受ケ試運轉ト別ニ之ヲ執行スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ船舶ノ艤裝及喫水ハ同大臣ノ適當ト認ムル状態ト爲スコトヲ要ス

試運轉ノ執行中船舶カ天災其ノ他ノ事變ニ因リ速力ヲ減シ又ハ機關ノ運轉ヲ停止スルニ至リタルトキハ該試運轉ハ總テ之ヲ無効ト爲シ更ニ試運轉ヲ行フ

「タービン」汽機ニ在テハ遞信大臣ノ適當ト認ムル器械ニ依リ算定シタル軸馬力ノ平均數ニ九十五分ノ百ヲ乘シタルモノヲ以テ實馬力ノ平均數ト看做ス

正汽機ノ運轉ニ直接ノ關係ヲ有スル副汽機ノ平均實馬力ハ前二項ノ實馬力ニ加算ス但シ外國ニ於テ製造シタル副汽機ナルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十四條 認許證書ヲ受ケ製造スル船舶カ竣工シタルトキハ認許證書ヲ受有スル者ハ第三號書式ノ請求書ニ左ノ書類ヲ添ヘ遞信大臣ニ造船獎勵金ノ下付ヲ請求スヘシ但シ第五號及第六號ニ掲クル書類ノ提出ニ付テハ二箇月以内ノ猶豫ヲ遞信大臣ニ出願スルコトヲ得

一 認許證書

二 竣工後ノ状態ヲ示シタル第三條第三號ノ圖面、船體部諸管配置圖及機關室諸管配置圖

三 積量圖

四 諸計算曲線圖

五 載貨重量圖

六 船舶製造費明細書(第四號書式)

前項第二號乃至第五號ノ圖面ハ蠟引布ヲ以テ調製シタルモノナルコトヲ要ス

第二十五條 船體總噸數一噸ニ對スル造船獎勵金ハ別表ニ依ル

第二十六條 遞信大臣ニ於テ必要ト認ムルトキハ吏員ヲ派遣シ認許證書ヲ受ケ製造シタル船舶ノ製造費計算及營業狀況ヲ監査セシムルコトアルヘシ

第二十七條 造船獎勵金ヲ受ケントスル者カ認許證書ノ下付ヲ受ケタル者ナルトキハ第一條、第四條又ハ第五條ノ書類中前回出願ノ後其ノ記載事項ニ異動ナキモノニ付テハ其ノ提出ヲ省略スルコトヲ得

第二十八條 本則中造船所ノ資格、本則ニ依リ差出スヘキ書類竝之ニ記載スヘキ事項ニ關スル規定ニシテ機關ノ製造ニ關係アルモノ及實馬力ノ算定ニ關スル規定ハ認許證書ヲ受ケ船體ノミヲ製造スル場合ニ之ヲ適用セス

附則

第二十九條 本則ハ明治四十三年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三十條 明治四十二年法律第十六號附則第二項及第三項ノ適用ヲ受ケントスル者ハ本則施行ノ

日ヨリ一箇月以内ニ當該船舶ノ使用ニ供スヘキ材料ノ注文ニ關スル書類若ハ工事進捗ノ程度ニ關

シ當該検査官吏ノ證明ヲ受ケタル書類ヲ添ヘ其ノ趣ヲ遞信大臣ニ申請スヘシ

附則 (大正四年六月省令 第二十七號ノ附則)

本令ハ大正四年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

(別表)

船舶ノ種類	船舶ノ資格	第一級船	第二級船	第三級船	第四級船
甲種船		金二十二圓	金二十一圓	金十九圓	金十四圓
乙種船		金十九圓	金十八圓	金十六圓	金十一圓

(第一號書式)

船舶件名書

船舶ノ種類及資格

機關ノ種類

計畫總噸數

計畫實馬力

計畫速度

豫定起工年月日

豫定竣工年月日

製造引受價格又ハ製造費概算船體 機關

右ノ通候也

何造船所所有者

氏

名印

年 月 日

(第二號書式)

第 號

認許證書

何造船所所有者

住所

族籍

氏名

汽(帆)船

船舶ノ種類

船舶ノ資格

機關ノ種類

計畫總噸數

計畫實馬力

前記ノ船舶ハ造船獎勵法ノ規定ニ適合スト認ムルヲ以テ此ノ證書ヲ下付ス

年 月 日

遞信大臣 氏 名 印

(第三號書式)

造船獎勵金請求書

一金 圓

內 譯

金 圓

船體總噸數

噸ニ對スル獎勵金

總噸數一噸ニ付

金 圓

機關實馬力

馬力ニ對スル獎勵金

一實馬力ニ付

右ハ明治 年 月 日付第 號認許證書ノ下付ヲ受ケ明治 年 月 日起工、同年 月 日

竣工致候間前記ノ獎勵金支給相成度此段及請求候也

何造船所所有者

住所

族籍

氏 名 印

年 月 日

遞信大臣宛

(第四號書式)

(汽)船何丸製造費明細書

船體部

項	目	材料數量	材料價格	工費	合計
一	鐵工事				
二	船匠工事				
三	木工工事				
四	鍛冶工事				
五	鑄造工事				
六	黃銅鑄造工事				
七	銅工工事				
八	亞鉛鍍工事				
九	塗工工事				
十	セメント工事				
十一	綱具工事				
十二	甲板用機械				

項	目	材料數量	材料價格	工費	合計
一	主汽機				
二	主唧筒				
三	補助機關				
四	汽罐				
五	汽罐附屬品				
計					
十三	電氣裝置				
十四	諸附屬品				
十五	仕上竝旋盤工事				
十六	雜工雜費				
十七	雜材料				
機關部					

8405

印發  
刷行  
者兼

遞

信

省

大正五年六月十日印刷  
大正五年六月十二日發行

6750

6

備考 遞信大臣ニ於テ必要ト認ムルトキハ各項目ノ内譯書ヲ提出セシムルコトアルヘシ

計	十三 雜費	十二 豫備品及附屬品	十一 冷藏機	十 試運轉	九 敷板、格子及手摺	八 諸管、瓣及嘴子	七 加速通風裝置	六 煙突及附屬薄板類



2018

大明  
宣統  
元年

歲  
次

己  
未

春

大正元年六月十二日  
大正元年六月十二日

